

# 凋落正に秋深し

(昭和三十八年寮歌)

諏訪正明君 作歌  
宮田睦彦君 作曲

一

楡が木の葉の秋風に  
吹かれて落つる芝草に  
佇む男子の胸の内  
散りしく落葉の数知れず  
凋落正に秋深し

二

灰青白き月影の  
銀杏並木の夜歩きは  
小さき鳥の乱れ飛び  
路面覆える金色に  
憂愁正に秋深し

三

寮が窓越し蔦の葉も  
黄色く紅く色づきて  
梢を揺する秋風に  
鳴るは心のため息か  
寂寥正に秋深し

四

ゆえだもあらぬこの悩み  
心の底に滲み入りて  
ぬぐいも切れずただ涙  
流れ落ちては地に吸われ  
懊悩正に秋深し